

ウミガメを守ろう

企画振興課
電話 (84)3162

山下芳也(県自然保護推進員)
電話 090(9491)6556

沖永良部島では、おおむね5月から7月にかけて、アカウミガメやアオウミガメ等の産卵する姿が見られますが、世界的にはこれらのウミガメは絶滅の危機に瀕しています。日本一のウミガメ上陸産卵地である鹿児島県では、昭和63年に「鹿児島県ウミガメ保護条例」を制定し、同条例により県内の海岸に上陸するすべてのウミガメとその卵を、捕獲・採取・殺傷することは原則禁止されています。

ウミガメは、豊かな自然環境の構成員である貴重な野生生物です。彼らが安心して産卵できる環境づくりに、また、産み落とされた“命”が無事に海へ帰っていきけるよう協力をお願いします。

ウミガメの産卵行動

①上陸 (10 分)

暗くなって波打ち際に接近したウミガメは、警戒心が強く、すぐには上陸しません。しばらくは波間にただよい、十分安全を確かめてから上陸します。砂浜に上がった後、しばらく口を砂につきたて浜の様子を調べます。

上陸したら、少し歩いては頭を上にあげ、大きく息をし、また歩くといったことを繰り返しながら産卵場所を探します。

②穴掘り (20 分～30 分)

産卵場所が決まると、前後の足をつかって体が砂に沈むくらいの深さになるまで、砂をかきわけます。

次に後足を使って直径20～30cm、深さ50～60cm程度の穴を掘ります。

③産卵 (20 分)

穴掘りが終わったら、穴のはしに、後足をおき10数秒おきに2～3個の割合で20分ほどかけて産卵します。卵の大きさはアカウミガメで直径40mm前後あり、色は白でピンポン玉に似ています。アオウミガメはそれよりひとまわり大きな卵(45～47mm)を産みます。

1回の産卵で100～140個くらい産み、同じカメが1シーズンに2～5回上陸をするため、500～600個の卵を産むものと推定されています。

④穴埋め (30 分～40 分)

産卵が終わったら後足を交互にを使って砂を中へ入れます。穴が埋まってくると砂を押し固め、さらに砂をかぶせるという作業を数回に分けて行います。

⑤帰海 (5 分～10 分)

卵が完全に埋まったら、産卵した場所をカモフラージュするように砂を後方に飛ばしながらしばらく進みます。それから海へ帰って行きます。

●過去の実績

年 度	28	27
上陸確認回数	79	81
産卵確認回数	55	64
卵盗掘確認件数	0	0
捕獲許可件数	0	0
捕獲協議件数	0	0
産卵観察会件数	6	8
子ガメ放流会件数	0	0



ウミガメ観察会日程 19:30 与和の浜集合

6 月 10 日 (土)

6 月 24 日 (土)

7 月 8 日 (土)

7 月 23 日 (日)

～ウミガメ観察時の注意事項～

ウミガメは非常に警戒心が強く、光を照らしたり驚かせたりすると、上陸しなかったり、上陸しても卵を産まずに途中で海に戻ったりすることがあります。産卵を観察する際には、次のことに注意しましょう。

- ・暗くなった海で騒がない。
- ・海岸でライトやマッチなどをむやみに点灯しない。
(タバコも控えること)
- ・波打ち際をむやみに歩き回らない。
- ・産卵場所にゴミを捨てない。
- ・上陸中や穴掘り中のウミガメに近づかない。
- ・産卵中のカメにむやみに近づいたり、光をあてたりしない。
- ・ウミガメにむやみに触らない。
- ・人間本意ではなく、ウミガメの産卵をみせてもらうという気持ちで観察する。

ご協力をお願いします!



「沖永良部ウミガメネットワーク」 <http://bird.amamin.jp>